

令和3年度 第1回 上山市いじめ問題専門委員会 要旨

日時 令和3年7月6日（火）午後6時30分～

場所 上山市役所 301会議室

1 開会

2 委嘱状交付

3 上山市教育委員会あいさつ

4 自己紹介（各委員）

5 委員長・副委員長の選出・承認

6 報告・協議（座長 委員長）

（1）令和2年度いじめに関する調査結果について

・別紙参照

【質疑応答等】

●小学校令和2年度は数が大幅に増えている。中学校は逆に少なくなっている。どういう要因があるのか。

【回答】小学校は、コロナ感染の影響が考えられる。学校再開後、子ども同士のかかわりが年度の中盤から急激に深まった中でトラブルが増えていた。中学校は、小学校のように直接的なかかわりということが急激に起きなかったのが要因ではないか。

●いじめの定義が改訂になったことでいじめの認知件数が全国的にも増えている中、いじめの定義の改訂に関する学校への周知及び共通認識ができていたのか。増え方が遅い要因や思い当たる原因等はあるか。

【回答】学校によって認知するアンテナの高さか違うと思っている。

●現場で防止対策推進法の定義を知らせるだけではなくて、なぜこういう定義になっているのかという共通認識を持った上で、アンケートや問題状況報告に反映していただきたい。

●小学生が登校する様子を見ていて、学校が楽しいという雰囲気が出てない。いじめは大人社会の反映なので、その辺が気になっている。

【回答】子ども達の意欲が高まるようにという問題意識は学校も持っている。集団で学習をしているので子どもたちの関わりづくりについて先生方と一緒に勉強を積んでいかなければならない。

●子ども達が行きたい学校をつくるためにはどうしたらよいか。学校の対策の中で議論してもらえればと思っている。

（2）コロナ禍における各学校のいじめ偏見防止に関する取組

・別紙参照

【質疑応答等】

●具体的にどんなやり方で指導されているのか。

【回答】発達段階に応じて計画を立てて、各学校で特に道徳の時間を中心に進めている。

●具体的な取組を記録として残していただいて、この委員会に出していただきたい。

●親と一緒に苦労して自分も結構できるという体験をするのもいいのではないか。

●コロナに係る差別・偏見というものは多様性がある社会ということ。親子で取り組んだり学校の中の授業で取り組んだりしながら価値づけていくことが大切だ。

●偏見に関するいじめだけではなくて、コロナの影響でコミュニケーションをとることが難しいことに起因するいじめの状況はだいぶ落ち着いてきているのか。

【回答】最近は慣れてきて、今年度はそのような声は聞こえてきていない。

●いじめをしている子へのアプローチやフォローはどのようなことを行っているか。

【回答】相手が嫌だと思ったらいじめとなる。具体例を踏まえながら指導している。

●何回もいじめを繰り返す子はいるか。指導はどうしているか。

【回答】いじめは、加害者と被害者が入れ替わる。被害者に対する対応と同じくらいの力量で加害者へも対応することが大切。

●いじめている子も同じ被害を受けている。いじめている子のケアも大切。

●いじめの問題を突き詰めていくと、教育とは何か、学校とは何かということ。対話的で主体的な学びを取り入れながら新しい教育を創っていくことが大切である。

【回答】上山市の学校教育指導の方針の中に、「子どもが行きたい」学校ということがある。主に授業の中で、多様性を大切にし、様々な意見を出し合わせる授業づくりを進めている。

(議長降壇)

7 閉会